

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 2 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500234

研究課題名（和文） 生涯学習機関としての北欧公共図書館の役割に関する実証的研究

研究課題名（英文） Empirical Research on the function of Scandinavian public libraries as places of lifelong learning

研究代表者

吉田右子（YOSHIDA YUKO）

筑波大学・図書館情報メディア系・教授

研究者番号：30292569

研究成果の概要（和文）：

本研究は北欧の公共図書館を日本の図書館の参照モデルとして位置づけ、北欧の公共図書館の実践と理念を明らかにした上で、生涯学習機関としての公共図書館サービスの意義を導き出し、日本の公共図書館研究にフィードバックすることを目的に実施された。

文献調査、現地調査、両調査の結果を踏まえた理論的検討により、本研究はデンマーク、スウェーデンおよびノルウェーの公共図書館サービスにかかわる実践・制度・理念の現時点での到達点を明らかにした。最終的に本調査結果は、生涯学習機関としての北欧公共図書館の意義とコミュニティにおける位置づけを解明し、日本の公共図書館サービス研究に対する示唆を与えた。

研究成果の概要（英文）：

This research identifies Scandinavian public libraries as a model for Japanese ones. The purpose of this research is to clarify the practice and the new philosophy of Scandinavian public libraries and, based on these findings, establish the meaning of the public library as a place for lifelong learning. The results of this research would ideally be applied to research on Japanese public libraries.

This research involved bibliographical survey, fieldwork in public libraries, and theoretical examination based on the results of the fieldwork. The research clarifies the current state-of-the-art of practice, system, and philosophy of the public library service in Denmark, Sweden, and Norway. Finally, the findings clearly showed the significance of the Scandinavian public library as a place for lifelong learning and its status within the community and gave meaningful suggestions for Japanese research on public libraries.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：図書館情報学、情報学、図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：公共図書館、生涯学習、北欧、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー

1. 研究開始当初の背景

(1) 現代の公共図書館は、レファレンスサービス、学習・ビジネス支援サービスなど、資料提供以外の様々な機能を持ち、コミュニティのメディアセンターとしての役割を果たしている。その結果、多様な利用者を獲得する一方で、公共図書館サービスの焦点が拡散し図書館の意義そのものも見えにくくなっている。また2003年の地方自治法の一部改正により、民間事業者が公共図書館経営を担うことが可能になり、日本の公共図書館は経営面での大きな変化に直面している。多様な組織体が図書館経営に参入する中で今、コミュニティにおける図書館のあり方が問われ、図書館研究には公共図書館の存在意義を明確にし、その活動の実践方針と理念的基盤を確立することが強く求められている。

(2) インターネットの普及により公共図書館に対する情報要求は相対的に減少している。こうした状況の中で、公共図書館の新たな活動領域の開拓が重要な課題となっている。北欧では図書館の生涯学習センターとしての機能に再び着目し学習機能を強化することで、図書館の新しい役割と新しい利用者の獲得を目指している。そこで行われている実践活動は、日本の公共図書館が最重要課題として掲げているサービスでもある。また利用者の公共図書館に対する認識の変化、地域住民による公共図書館空間の新たな発見など、図書館サービスを受ける側の利用者の変化が顕著に示されるようになった。

(3) 転換期にある日本の公共図書館は、その意義とサービスの方向性を再検討している。図書館サービスを進展させていくために必要な理論を構築していくにあたり、北欧の公共図書館の実践と理念を参照することで、あらたな方法論的枠組みの導入が期待される。また伝統的なサービスと新たなサービス

の重層的な展開という面で北欧の公共図書館のあり方に、社会制度を超えて公共図書館が共有する議論と課題を見出すことができる。それらは日本における図書館研究における議論の材料と理論形成のための理念的基盤となりうる。

2. 研究の目的

本研究では、生涯学習機関としての北欧公共図書館の役割に関する実証的研究を行う。北欧の公共図書館は生涯学習を自らの理念として掲げ、コミュニティ住民の情報へのアクセスを確保し、住民の学習支援を行ってきた。日本の公共図書館も同様の理念を有するものであり、伝統的に住民の生涯学習の拠点機能を担ってきた北欧の公共図書館を日本の公共図書館サービスの参照モデルとして位置づけることが可能である。本研究では北欧の公共図書館の実践と理念を明らかにした上で、日本の公共図書館研究にフィードバックすることを目的とする。

3. 研究の方法

文献調査、インタビュー調査、現地調査、理論的検討を組み合わせている。研究の中核となる現地調査によって北欧の公共図書館サービスの実践及び制度を明らかにし、フィールドワークによって得られた結果を踏まえ、図書館実践を支える理念的基盤を検討した。分析視点として(1)生涯学習の場としての公共図書館の存在意義、(2)多様な文化的背景を持つ図書館利用者、(3)ウェブサイトを通じた公共図書館の新しいサービスという3点をフィールドワークにおける重点的な調査ポイントおよび理論的検討のための枠組みとした。

4. 研究成果

(1) 1年目は、北欧諸国の公共図書館制度について、歴史と現状を包括的に整理し、本

研究の基盤となる北欧公共図書館のサービス全体について把握した。北欧図書館研究に関する網羅的な文献調査を行い、生涯学習と図書館を検討するための方法論についても検討した。1年目の成果としては、北欧公共図書館の理念的課題や生涯学習の場としての位置づけをマクロな視点からとらえるための基礎的なデータを収集した。北欧において公共図書館は伝統的にインフォーマルな学習の場として位置づけられてきた。その上で公共図書館は地域コミュニティにおける情報へのアクセスの確保と、地域住民の学習活動の支援という点において実質的な役割を果たしている。現時点で公共図書館は伝統的な役割を継承しつつ、情報技術の進化を視座に入れて多様なメディアを柔軟に提供する新たなサービスの提供を展開している。また図書館による支援のニーズが高く緊急性の強い利用者であるマイノリティを対象としたサービスに焦点を当てている。北欧の公共図書館の実践と理念の新たな方向性を参照しながら、利用者の公共図書館にかかわる認識や利用者による公共空間としての図書館の発見の中で生じている変化を検討し、インフォーマルな学習の場としての公共図書館の意義を整理した。

(2) 2年目は北欧諸国の中で公共図書館の基盤となる法・政策・専門職制度が最も安定的に機能しているデンマークを対象に、2010年8月25日から9月11日まで現地調査を行った。公共図書館サービスの最前線を把握するためコペンハーゲン、オーゼンセ、オーブスにおいて、指導的役割を果たしている公共図書館を訪問し、図書館専門職員を対象に先端的なサービスについてインタビュー調査を行った。サービスの現状、実施されているプログラム、施設について詳細な調査を行い、調査時点でのデンマークの公共図書館サービスの到達点を明らかにした。

(3) 3年目は北欧諸国の中で情報技術を最も積極的に図書館サービスに取り入れ、館種横断的な図書館政策を実現している点で、図書館政策の独自性を強く持つノルウェーを対象に、2011年8月27日から9月7日まで現地調査を行った。公共図書館サービスの最前線を把握するため、オスロ、イェービク、ドラムメンにおいて、指導的役割を果たしている公共図書館を訪問し、図書館専門職員を対象に先端的なサービスについてインタビュー調査を行った。サービスの現状、実施されているプログラム、施設について詳細な調査を行い、調査時点でのノルウェーの公共図書館サービスの到達点を明らかにした。

(4) 研究全期間を通して、北欧諸国の中で

福祉国家としての特性を図書館政策に反映させたサービスに特徴がみられるスウェーデンの公共図書館を対象に、メールインタビューを中心とする調査を行った。図書館専門職員への継続的なインタビューを通して、スウェーデンの公共図書館サービスを児童、マイノリティ等の利用者特性に焦点をあてて明らかにした。また通常の図書館利用に関して困難な状況にある利用者に対するサービスの現状を整理した。

(5) 本研究の目的は、生涯学習機関としての北欧公共図書館の役割に関する実証的な調査を行うことで、北欧の公共図書館を日本の公共図書館サービスの参照モデルとして位置づけることであった。調査を通じて、理念・実践両面での共通点・相違点を明らかにすると共に、デジタル化が進む図書館界に共通する公共図書館の将来的な在り方に関し、図書館サービスを踏まえた利用者の自発的な活動や、図書館が持つコミュニティ構築機能に着目することで、21世紀の公共図書館の可能的様態について検証した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① Yuko Yoshida, The public library as a space for informal learning, Scandinavian Public Library Quarterly, 査読なし, No. 4, 2009, pp. 16-17.

[学会発表] (計1件)

① 吉田右子, 21世紀の公共図書館をデザインする：デンマークにおける公共図書館というスペース、第8回国際図書館学セミナー、2011年11月5日、6日(京都大学 吉田キャンパス)

[図書] (計1件)

① 吉田右子, 新評論、デンマークのにぎやかな公共図書館、2010、264.

[その他]

(5) その他

① 報道関連情報

吉田右子, 「公共図書館はだれのもの? 北欧に学ぶ多様なサービス」『産経新聞』2011年2月7日付朝刊(取材協力)

② 講演・講座等

・ 吉田右子, 「著者×まちとしょテラス 図書館魅力再発見トーク! デンマークのにぎやかな公共図書館」小布施町立図書館、2011年12月2日

- ・吉田右子、武蔵野地域自由大学講座 2011、公共図書館の歩みと楽しみ（2011年11月25日＜北欧社会と図書館：歴史的歩み＞、12月2日＜デンマークの社会と図書館サービス＞、12月9日＜ノルウェーの社会と図書館サービス＞、12月17日＜公共図書館の可能性を北欧に学ぶ＞
- ・吉田右子、「デンマークの公共図書館は将来の夢を描く場所」東京子ども図書館、2011年11月11日
- ・吉田右子、デンマーク発「にぎやかな図書館」の話、鎌倉市中央図書館、2011年10月30日
- ・吉田右子、図書館の魅力再発見 デンマーク公共図書館のたのしい話、大磯町立図書館、2011年10月1日
- ・吉田右子、第15回 静岡県図書館交流会、コミュニティを元気にするデンマークの公共図書館、藤枝市立駅南図書館、2011年5月15日
- ・吉田右子、語らいのひろば デンマークのにぎやかな公共図書館をにぎやかに語る集い、八日市図書館、2011年3月6日

③記事

- ・吉田右子、夢をみる・夢をかなえる：北欧三国の公共図書館、こどもとしょかん、No. 133、2013年4月刊行予定
- ・吉田右子、第8回国際図書館学セミナー記録 21世紀の公共図書館をデザインする：デンマークにおける公共図書館というスペース、図書館界、pp. 438-439.
- ・吉田右子、図書館はわたしたちの学校だから—デンマークの公共図書館におけるマイノリティを対象としたサービス—、AJALT、No. 34、2011年6月10日、pp. 36-37.
- ・吉田右子、デンマーク公共図書館のにぎわい、聖教新聞、2011年2月16日朝刊文化面

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 右子 (YOSHIDA YUKO)
 筑波大学・図書館情報メディア系・教授
 研究者番号：30292569